

(5) 雪とくらしについて考えよう!

① 道路の除雪はだれがどのようにしているのかな?

区の土木センターでは、ひと冬の除雪の計画をたてます。そして除雪車を手配して、いつでも出動できるようにじゅんびをします。冬になって、車が走りにくくなる位まで雪がふると、除雪車が出動します。真夜中にたくさんの除雪車が出動して、それぞれの受けもつ区間を深夜から早朝にかけて除雪します。そうすると、みんなが学校に行く時間には車も歩く人も、安心して通行することができます。

除雪システム徹底調査

◆札幌の除雪（3つの分け方）

1 設備・機械

何を使って雪をどかす？



ロータリー除雪車

固い雪をけずって、遠くにふきとばす。



グレーダ

道路の上の雪をけずり、道を広くする。



ダンプカー

集めた雪を雪捨て場へ運ぶ



融雪槽

雪を入れて溶かす大きな装置。



ロードヒーティング

道路の下のヒーターで雪をとかす。



小型除雪機

歩道や細い道の雪をどかす。

2 システム

どんなしくみで動いている？



除雪センターが24時間見守る
天気を見ていつ除雪するかを決める。



排雪の計画を立てる
除雪だけでは、雪を置ききれなくなるので、雪を運ぶ計画を立てる。



地区ごとに業者が担当する
札幌は広いので、地域ごとに除雪のプロの会社が作業をする。



排雪の優先順位を決める
交通量の多い道、バスが通る道、通学路などを優先して排雪する。



市民への情報発信
ホームページやSNSで除雪の情報を知らせる。

3 人

どんな人が働いている？



除雪オペレーター(除雪車の運転手)
夜中でも出動して、安全な道を作るプロ。



ダンプの運転手
集めた雪を雪捨て場まで運ぶ。



計画を立てる職員と除雪センターの職員
どこを、いつ、どの機械で除雪するかを決める。



家の前の雪かきや地域の雪かきに協力している人
家の前の雪かきや、通学路の確保に協力している。

②各家庭の玄関前の雪をどうしたらよいのだろう

世界有数の除雪システムなのになぜ苦情も多いんだろう？
せっかく除雪したのに…

自動車が出られない！商売ができない！重い・堅い
そのほとんどが玄関前の雪（間口除雪）



もっと除雪を！

もっと除雪を完璧にしてほしい
もっとお金をかけて雪堆積場を増やしてほしい

もっと意識を！

ちょっとぐらいはがまん
自分のことは自分で

あなたは、
どちらがよいと思いますか？
そして、その理由は？

ー「もっと除雪」より「もっと意識」が大切な理由ー

玄関前の雪は、冬になると毎日のようにたまります。「全部市がきれいにしてくれば
いいのに…」と思うかもしれませんが。でも実は、「もっと除雪を!」「もっとお金を!」「もっと
雪捨て場を!」だけでは、問題は解決しません。理由は次の通りです。

車道除雪・歩道除雪

車道除雪は、降り積もった雪を道路わきに寄せて、車道を確保する作業です。
除雪する^の延べ長さは、令和7年度で5,465kmです。これは飛行機で札幌と沖
縄^{いし がき じま}の石垣島^{きよ り}を往復する距離になっています。

歩道除雪は、雪を小型ロータリー除雪車で積み上げて、歩きやすくする作業
で、その延べ長さは、令和7年度では3,048kmです。

③「もっと除雪を!」では終わらない理由

1. 除雪にはお金がものすごくかかる

札幌では毎年、数百億円という大きなお金を使って除雪しています。

これをもっと増やすと、学校・公園・道路の整備など、他の大事なことに使うお金が足りなくなります。

年度	道路除雪費	雪対策費	合計
令和3年	164億	50億	214億
令和4年	170億	46億	216億
令和5年	220億	44億	264億
令和6年	226億	52億	278億
令和7年	236億	49億	285億

参考) <https://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/library/budget.html>

2. 除雪車にも限界がある

除雪車はたくさんあっても、

- ・一度に全部の道は回れない
- ・狭い場所には入れない
- ・風で雪がふきだまる場所は、すぐ元にもどる

など、機械だけではどうにもならない場所がたくさんあります。

3. 雪を捨てる場所も無限に作れない

雪堆積場^{たいせき}(雪を捨てる場所)は土地を広く使い、環境にも影響します。

「もっと作ればいい」というほどかんたんではありません。雪堆積場へ運搬するためのダンプトラックも必要となりお金もかかります。



④だからこそ「もっと意識を!」が大切

市がすべてやるのではなく、市民一人ひとりの協力があると、街全体がぐっと動きやすくなります。

1. 「自分の家の前は自分で」

玄関前の雪かきを少しでもすることで、

- ・歩きやすくなる
- ・転びそうな人を助けられる
- ・道が狭くならない

など、地域に大きなプラスが生まれます。

2. ちょっとの「がまん」で大きく変わる

雪国では、

- ・道が少しせまい
- ・雪山ができる
- ・朝はサラサラの雪が積もっている

こうした“冬の当たり前”を、少しでも受け入れる気持ちも大事です。

3. ボランティアや助け合いで、街が強くなる

高齢の人や体が不自由な人の家の前を手伝ったり、町内で雪かきを分担したりすることで、「みんなで冬を乗り越える街」になります。



⑤ みんなが除雪に協力できることはないかな？

道路でそり遊びなどをするのはやめましょう。



道路のわきに積まれた雪の山で遊んでいる子をよく見かけます。でも、道路へ飛び出したら大変です。交通事故になることもあるから、遊ぶ時は安全なところで遊ぶようにしようね。

げんかん先などに残った雪はみんなが除雪しましょう。



限られた時間で長い道のりを除雪しなければならないため、除雪車が通った後、げんかん先などには雪が残ってしまいます。げんかん先などの雪はみんなが除雪しようね。

ごみを出す日と時間を守りましょう。



ごみを出す日や時間を守らないと、除雪で雪の中にまざってしまうことがあります。春になってごみが出てくると大変です。しっかり守ってね。

夜中の除雪の音はがまんしてほしいです。



いそがしい朝の車や歩く人の安全を考えると、夜中に除雪作業をしなければなりません。少し音がうるさくてもがまんしてね。

路上ちゅう車があると除雪できません。



一台でも路上ちゅう車があると、きれいに除雪できません。しょう来、みんなが車を運転するようになったら、除雪のじゃまになるような路上ちゅう車は、ぜっ対にしないでね。

道路へ雪を出さないようにしましょう。



きれいに除雪した道路にちゅう車場の雪などを出している人がいますが、せっかく通りやすくした道路が、せまくなって交通事故の原いんになることもあります。ぜっ対にしないでね。

⑥ 結論:大切なのは「市の力」と「市民の力」の両方

市には、市の仕事があります。でも、市だけで完璧にすることは不可能です。

だからこそ、

- ・市がする除雪(大きな雪の処理)
- ・市民がする除雪(家の前の安全づくり)

この2つが合わさって、はじめて札幌の冬は安全になります。

「全部やって!」では冬は回らない。

みんなで少しずつ力を出し合ってこそ、街は雪に負けない。



**たくさんの人に、除雪のことをわかってほしいね！
除雪川柳を作ろう！**

例)

大雪に 町が動けば 道ひらく
1すくい 誰かの安全 作る道

除雪車と 人の力で 冬を越す
家の前 みんなでかけば 道のびる
雪の町 支えるしくみ 知る朝だ